

特定非営利活動法人京丹後コミュニティ放送

平成26年 2月期（第33回）番組審議会 議事録（抄）

開催日時 : 平成26年 2月24日（月）午後7時30分から 8時20分まで

開催場所 : 京都府京丹後市峰山町丹波825番地の1

NPO法人京丹後コミュニティ放送 1階事務所内

委員の出席 : 委員総数 8名

出席委員数 : 5名

欠席委員数 : 3名

放送事業者 : 3名

側出席者

・開会

局長挨拶

1、番組審議

・議題

番組審議

番組名「サバーバンベース」

平成26年 2月20日（木）午前8時～8時30分（隔週更新）

出演：DJ-KAZ、P-NUTZ

内容：「サバーバンベース」の意味、担当パーソナリティのサブがサブカルチャー、アーバン都市をたして、さらにベース基地をくっつけた造語のようなものです。

KAZが曲を選曲し、DJのようにずっと曲をつないで流しています。その中で、イメージとして、DJをしている傍らにP-NUTZがいて、曲名を聞いたりすることで、DJブースの中で会話をしているかのような形で番組をやっています。

番組の趣旨としては、リスナーにクラブカルチャーというものを知ってもらう。そして、クラブイベントへ呼び込みをして俱樂部イベントそのものが盛り上がればいいなという思いです。

普段の他の番組より意図的に音楽を大きくしています。騒がしい感じがすると思います。

番組用のFacebookページを作成し曲名のリストとプロモーションビデオがネット上にあればそれも紹介し補足説明をしています。

- ・閉会、理事長挨拶

内容

*委員からの主な意見として

- ・一般受けはなかなか難しいと思います。
- ・世代の違いを感じます。
- ・今までにない発想の番組ですね。
- ・田舎では、知られていないジャンルですね。
- ・イベントでやればこういうものなのかと言う事がわかると思いますね。ラジオだけでは年齢にもよりますが違和感があります。
- ・原曲を流したあとにアレンジした曲を流しては、違いがわかるようにするのもよいのでは。
- ・メインパーソナリティに元気がないように思います。
- ・トークも（曲調に合わせて）のってしゃべれば、どんな感じかなという興味がもっと湧くのでは。
- ・丹後弁でしゃべると違和感がありますね。
- ・メインとサブのしゃべりに差がありすぎる。
- ・元気だしてしゃべらないと音に負けている。
- ・お店とか、普段であればもっとのってやってるのではないか。
- ・踊れるジャンルだと思うが。
- ・トークを聴いていては、踊れそうにはないですね。
- ・もっとテンポよくやってほしい。
- ・やはり丹後という土地では馴染みがないのは事実ですね。
- ・興味があるのは、もともとどういう曲がどうしてこんな風な曲になるのかなと思いますね（リミックスに関して）。
- ・元の曲と比べてみるのもよいのでは。
- ・クラブカルチャーを知ってもらうのが目的であれば、こういうものだと分かる仕組みを入れたほうが良いのでは、ただ曲が流れているだけでは。
- ・技術的なことを話してもらえる方がよいのでは。
- ・少し興味を持った人が、じゃあ次も聴いてみよう、聴いたら何か学べるかもしれないと思えるような内容もよいのでは。
- ・ライブハウスでイベントをされるとおっしゃっておられたが、少し興味が湧いても実際年齢等考えると行きにくいものです。できたらあじわいの郷とかもっとオープンなところでやってもらって、子どもたちに体験とかさせてもらえたらいいのでは。
- ・子どもたちは、体験したこととで、音楽を聞いてみたいとか興味が湧いてくると思います。
- ・聴くのと見るのでは違いますからね。

- ・番組内に、興味のある素人の人に入ってもらって技術指導をしていくのも一つでは。
- ・ラジオを聴いてもらうという意味では、人の集まるイベントでみてもらい、番組のPRをしたらよいのでは。

以上意見有（抜粋）

審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日
特になし

審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、放送及び年月日

- ① 当局事務所内に掲示
- ② 当局ホームページ <http://fm-tango.jp/> に掲載

その他参考事項
特になし